

植物多様性センターの「イソギクの花」

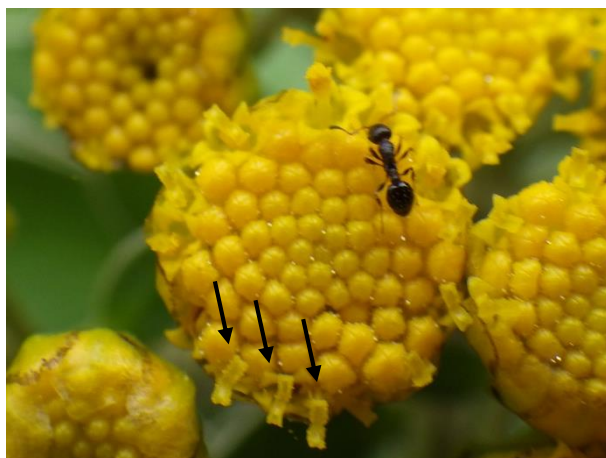
伊豆諸島ゾーン海岸性岩地エリアに、イソギクが見ごろとなっています。イソギクは、花の少ない晩秋から初冬にかけて開花し、低温でも活動できるハエやアブなどの昆虫を花粉媒介者としています。花色はハエやアブの好きな黄色。蜜や花粉とともに独特の匂いで誘います。イソギクの咲いているそばに近づくと、途端に強い香りが漂います。暖かな日にしばらく観察していると、小さなガの仲間やアリなどもちゃっかり訪花しています。



訪花昆虫：ツマグロキンバエが長い口器で蜜を舐める



訪花昆虫：昼行性の小型のガ、シロオビノメイガも花が好き



雌性花：頭状花の外側には雌しべのみの雌性化がある



両性花：5裂した筒状花の葯筒から押し出された花粉